

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立西原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 45人

② 算数 45人

5 留意事項

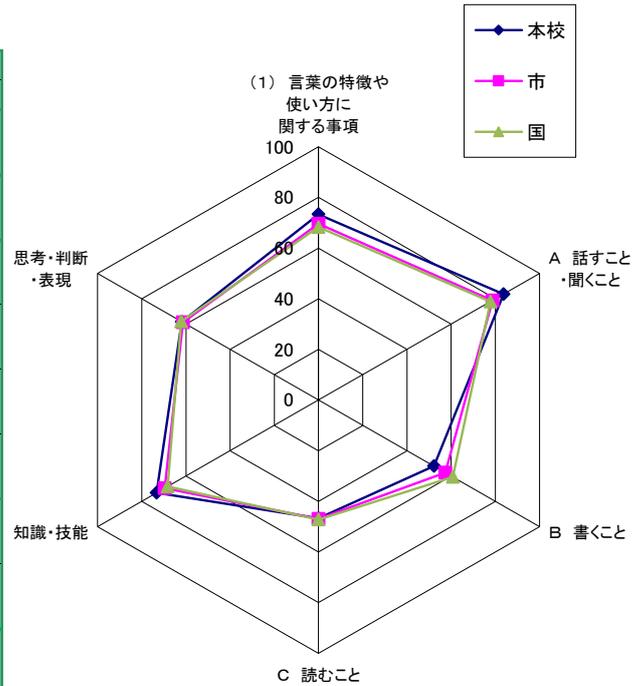
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立西原小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	73.3	69.6	68.3
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	83.7	78.7	77.8
	B 書くこと	52.2	57.3	60.7
	C 読むこと	46.7	46.9	47.2
観点	知識・技能	73.3	69.6	68.3
	思考・判断・表現	61.9	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

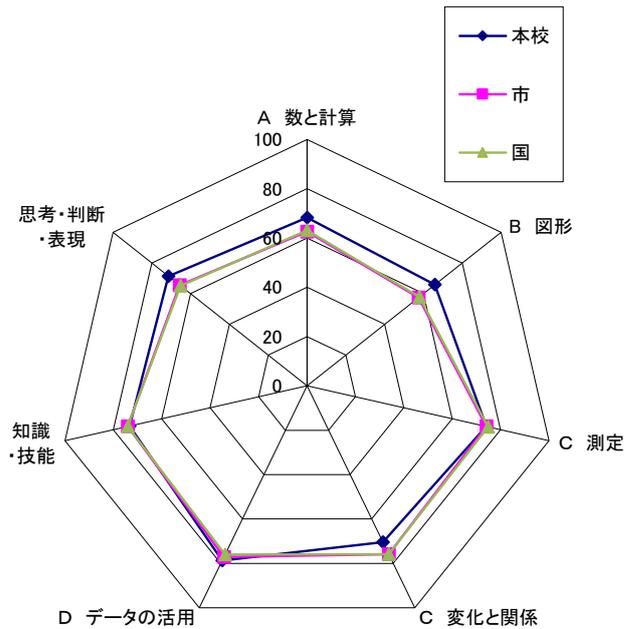
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	<p>平均正答率は全国、市の平均より高い。</p> <p>○文の中における主語と述語との関係や修飾と被修飾との関係を捉えることができている。</p> <p>●学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題では、平均正答率は高かったが、問題によっては無回答率が高いものがあった。</p>	<p>・文や文章を書く際には、漢字のもつ意味を考えながら使う習慣が身に付くように指導していく。また、同音異義語など間違えやすいものについては、漢字辞典を使って意味を調べたり、短文作りをしたりする学習などを取り入れ、文や文章の中で正しく使うことが出来るように指導していく。</p>
A 話すこと・聞くこと	<p>平均正答率は全国、市の平均より高い。</p> <p>○資料を用いた目的を理解する問題と目的や意図に応じて、資料を使って話す問題の正答率が高かった。</p> <p>●目的に応じて、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題の正答率が低かった。</p>	<p>・自分の考えや伝えたいことを話すスピーチでは、自分の立場や結論などが明確になるように、話の内容を構成することが大切なので、朝の会のスピーチや、授業中で意見を述べる場面において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見を区別するなど、構成を考えられるよう助言する。</p>
B 書くこと	<p>平均正答率は全国、市の平均より低い。</p> <p>○正答率は低く、課題であるものの、無解答率は低く、書こうという姿勢が見られた。</p> <p>●目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、正答率が特に低く、課題があった。</p>	<p>・定期的に作文の宿題を出す。目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるような書き方について指導していく。お題を与えて、楽しみながら書く力を身に付けさせるとともに、文字制限を設けるなど、決められた字数で書ける力も育てたい。</p> <p>・ワークテストの振り返りの際、文章で答える問題については何について書くことが求められているのかを確認するよう助言する。</p>
C 読むこと	<p>平均正答率は、市平均は上回っているが、全国平均よりは低い。</p> <p>○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、正答率が高かった。</p> <p>●目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題では、正答率が低かった。</p>	<p>・多くの教科で本や図鑑を使って調べる学習を行っているが、自らの課題を解決するための必要な情報を探す際、目次や索引を利用することについても適宜指導していく。</p> <p>・クロームブックを活用した調べ学習において、検索ワードの入力の仕方や、情報の発信元の確認、必要な情報は何かに気を付けて学習できるように適宜指導をしていく。</p>

宇都宮市立西原小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	68.3	62.6	63.1
	B 図形	65.9	57.5	57.9
	C 測定	74.1	74.1	74.8
	C 変化と関係	70.4	75.8	75.9
	D データの活用	78.7	77.1	76.0
観点	知識・技能	73.3	74.1	74.1
	思考・判断・表現	71.4	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は全国、市の平均より高い。 ○示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する問題で、正答率が高かった。 ●小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する問題で、正答率が低かった。</p>	<p>・問題の中から必要な情報を収集した上で条件に合うものを選択したり問題場面に適用できるかを考察し判断したりすることができるように、解決した後に使った式を問題場面に戻って振り返る場を設定することも児童の状況に応じて取り入れながら授業を行っていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は全国、市の平均より高い。 ○三角形の面積の求め方の問題で、正答率が高かった。 ○複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する問題で全国、市の平均より10ポイント以上正答率が高かった。</p>	<p>・図形の性質や構成要素に着目し、図形の移動、回転、反転することで、ほかの図形を構成するような操作活動などによって確かめる時間を授業の中に意図的に設ける。</p>
C 測定	<p>平均正答率は、市平均は上回っているが、全国平均よりは0.7ポイント低い。 ○二つの道のりの差の求め方と答えを記述する問題で正答率が高かった。 ●生活の中で計画的に行動するための条件に合う時刻を求める問題で、全国、市の平均より正答率が低かった。</p>	<p>・日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、必要な数量やその関係を捉えて、表現・処理することができるように、自分の考えをノートに書きまとめたり、考え方を比較・検討したりすることを授業で行うようにしていく。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は全国、市の平均より低い。 ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題で、正答率が高かった。 ●速さを求める除法の式と商の意味の理解を問う問題で、正答率が低かった。</p>	<p>・単位量当たりの大きさの意味について、図を利用して視覚的に場面を捉えさせる等、問題場面と式のつながりを明確に理解できるようにする。 ・異種の二つの量の割合として捉えられる速さなどの意味・表し方についての理解が深められるよう、その思考過程や結果を表現したり、説明したりする学習を授業で行うようにする。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は全国、市の平均より高い。 ○棒グラフから、項目間の関係を読み取る問題で、正答率が高かった。 ●データを二次元の表に分類整理する問題で、全国、市の平均より正答率が低かった。</p>	<p>・授業の中で、グラフから資料の特徴や傾向を読み取る学習を行う際に、グラフから分かることを伝え合う時間を十分にとる。また、グラフのどの部分に着目して読み取ったのかについても説明することが出来るよう指導していく。</p>

宇都宮市立西原小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎朝、同じくらいの時間に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」の質問の肯定回答の割合が、栃木県・全国の肯定割合より高い。本校の児童は、規則正しい生活を心掛けていることがわかる。

○「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の質問の肯定回答が県や全国のものより10ポイント高い。ルールの大切さを理解し、正しく使おうとしていることがわかる。

○「自分にはよいところがあるとおもいますか」という質問では、肯定回答が93.4%と高い値を示している。家庭や学校が、児童のよいところを認めつつ教育していることが伺われる。

○「将来の夢や目標をもっていますか」という質問の肯定回答の割合が県や全国のものより10ポイント以上高い。家庭や学校に置けるキャリア教育がしっかりとなされていることがわかる。

○「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問の本校の肯定回答は、100%であった。上級生として、様々な場面での働きを認められていて、それをやりがいに感じていることが伺われる。

○「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問の本校の肯定回答は、100%であった。日ごろからいろいろな場面で学び合い・助け合いが成立していることがわかる。

○読書に対する関心が高い。「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」という質問で最も多かった回答は、「30分以上、1時間より少ない」であった。約85%の児童が、平日でも10分以上読書をしていることがわかる。

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問の肯定回答が、県や全国のものより15ポイントほど高い。「西原大家族」という言葉を大切に、意識している児童が多いことが伺える。

○国語や算数、英語などに関連する質問の肯定回答が高く、これらの教科に対し、意欲的に取り組んでいることがわかる。新型コロナウイルスの感染拡大での休校中、計画的に学習を続けられたかの質問でも、肯定割合が非常に高かった。児童はもちろん、家庭の学習に対する意識の高さが伺える。

宇都宮市立西原小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎・基本の確実な定着、児童の実態に応じたきめ細かな指導	西原小「学習の約束」をもとに、基本的な学習態度を身に付けることができるよう、全教職員で共通理解を図ってきた。また、年度初めに各教科の授業の進め方や朝の学習、家庭学習の実施方法等についての共通理解も図り、指導を積み重ねてきた。	・国語の「知識・技能」「思考・判断・表現」、算数「思考・判断・表現」は、市や全国の平均正答率よりも高かった。しかし、算数「知識・技能」においては、市や全国の平均正答率を下回った。学年が進むにつれ、学習内容も難しくなり、前学年までの学習内容が定着していない可能性もあるので、日々の授業やモジュールなど朝の学習、家庭学習の指導の在り方を見直し、学校全体できめ細やかな指導を行っていく。
・児童が主体的に取り組めるような学習の展開や場の設定、思考力や表現力を育てる指導の工夫・改善	・言語活動の充実、振り返り活動の充実を行い、児童が主体的に取り組めるような授業の在り方・思考が見えるようなノート指導の工夫について、共通理解を図ることができるよう校内研修を行ってきた。学び合いの場の設定については、新型コロナウイルス感染症予防対策をとり、工夫して行った。	・質問紙から、「国語の勉強は好きですか」「算数の勉強は好きですか」の設問の肯定割合が、市や全国平均よりも20ポイント近く高かった。「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」等の質問の肯定割合も高く、学習を進んで楽しみながら学習する姿がうかがえる。今後も発達段階に応じたノート指導、ノートに書くことによって学びを深められるようにしていきたい。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語「書くこと」の平均正答率が低い。	・ノート指導の工夫	・授業の振り返りや自分の考えを自分の言葉で書くような場面を意図的に設ける。
・算数「変化と関係」の平均正答率が低い。	・半具体物や図の効果的な活用	・文章の意味を捉えにくい問題など、絵や図、具体物などを積極的に活用し、視覚的に理解できるようにする。